

臨床研究「経尿道的尿道狭窄切開術における超音波併用の有効性」について

筑波大学附属病院小児外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

小児尿道狭窄症は排尿困難だけでなく、昼間尿失禁（おもらし）や膀胱尿管逆流や膀胱機能障害の原因の一つとされています。小児尿道狭窄症に対する治療としては、尿道から尿道鏡を挿入して狭窄部を切開する経尿道的尿道狭窄切開術が広く行われています。しかしながら治療の適応は施設によって異なっており、手術中にどれくらい切開が必要かという客観的な基準や、術後の症状改善率などはまだ明らかになっていません。今日、小児の腎泌尿器の検査として超音波検査は一般的であり、筑波大学小児外科では検査だけでなく手術中にも超音波を併用しながら尿道狭窄症に対する手術（以下、本術式）を行っています。尿道鏡および超音波検査での尿道径の結果と術後外来通院中の排尿時膀胱尿道造影や超音波所見、尿路感染症の有無、尿失禁の評価などを比較し、本術式の有効性を評価します。

② 研究対象者

2019年1月1日から2023年6月30日までに小児尿道狭窄症に対して手術を受けた患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年3月31日まで

④ 資料・情報の利用及び提供を開始する予定日

利用開始予定日：2023年9月1日

提供開始予定日：該当なし

④ 研究の方法

研究対象となる患者さんの診療録を用い、下記⑤の項目について検討を行います。全ての診療情報は匿名化され、患者さんの名前がわからない状態で学会や論文で報告を行います。

⑤ 試料・情報の項目

診療録に記載されている、研究対象となる患者さんの年齢、身長や体重、既往歴、術中や術前術後に超音波検査で測定した尿道径、術中の尿道鏡所見、外来通院中における排尿時膀胱尿道造影検査の結果や超音波所見、尿路感染症の頻度、尿失禁の頻度

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 小児外科 病院助教 後藤悠大

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

TEL：029-853-3094（小児外科医局：平日9時から17時）

029-853-3110（救急外来受付：上記以外の時間帯）

所属・担当者名：小児外科 後藤悠大（ごとう ゆうだい）